

図書館通信 — 2 —

1970. 3

浜松分館の現状と将来

浜松分館長 市川常男

浜松分館の現状と今後の計画について概略の説明を行ない、関係者の理解と協力を期待したい。

1. 現状

a. 組織

分館長

- 図書委員会（工学部 3 名、電研・工短各 1 名）
- 図書係（7 名、内臨時 4 名）

c. 図書・雑誌

蔵書数 63,707冊（昭和43年度）
 年間受入図書数 3,904冊（ ）
 年間受入雑誌数 1,015種（ ）

d. 図書館活動の推移

図書・雑誌の年間受入数、奉仕対象者数、事務職員数の推移を示すと図のようになり、浜松分館の仕事量が近年急増していることがわかる。

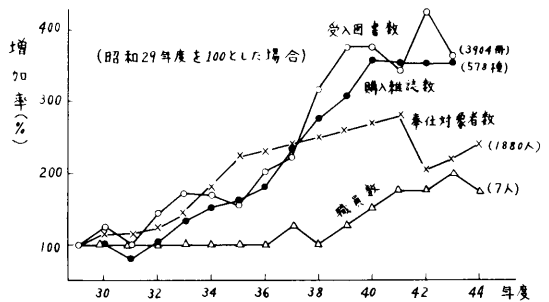
b. 奉仕対象

対象部局

- 工学部
- 電子工学研究所
- 工業短期大学部

対象者数

- 教職員 315名
- 学生 1400名



2. 今後の計画

工学部の50周年記念事業（旧工専創立以来）の一環として浜松分館の建築（昭和46年度予定）と同時に今後の運営方針について種々検討を行なっている。

a. 建築

文部省の基準によると建築面積は1510m²（3年次以上の学生）または1965m²（2年次以上の学生）となる。先般静大を訪れた図書館実地視察員の講評にあった「工学図書館のモデルとなるように」との勧告に応えるべく、現在類似した規模の大学図書館の設計図面・資料を収集中である。

b. 運営方針

図書館は学生にとっては学習活動のセンターであり、教官にとっても学術文献・資料調査の中心であるにもかかわらず、従来その重要性が若干等閑に付されていた嫌いがある。必要な設備の充実、環境の整備によって親しまれ利用しやすい図書館にしたい。また今後予想される指定図書・参考図書制度の採用を考慮し、開架図書の拡充を図りたいと思う。

現在工学部キャンパスで購入している雑誌の重複部数は7部重複1種、6部3種、4部7種、3部13種、2部42種であり、仮に1部づつ購入に変えれば110部が過剰となる。複写技術が進歩しているので、図書館職員の複写サービスによっては今後文献・雑誌の図書館への集中化が可能となり、研究者も現在よりむしろ多くの便宜を受けることができると思う。

職員の充実によっていわゆるレファレンス業務を活発にし、学生の学習・研究上の調査による協力をする必要がある。

とくに文献類については、電子計算機の導入による整理とレファレンス・サービスを考慮すべき時期が早晚訪れるものと思う。

■図書館委員会報告

昭和45年1月20日

於 本 館

- (1) 図書購入費は全額を本館（分館を含む）に留め置く。分館留保額は昨年度実績額を大幅に下回らないよう館長と分館長が協議して決める。

■東部地区図書委員会報告

昭和45年2月4・13日

於 本 館

- (1) 図書購入費による図書の第1次・第2次選定を行なった。そのリストは、別記の通り。
 (2) 教養図書の第2次選定を行なった。
 (3) 44年度の図書購入手続は、特別のものを除き2月末までで受理を打ち切ることにする。
 (4) 開架図書中、不明図書の補填については購入可能額の範囲内で、従来通り東部学部・教養部で負担することになった。

図書購入費による図書選定リスト

人文地理 1—17

海事史料叢書 全20巻

李朝実録

書誌学 復刻版 全10冊

最高裁民事判例批評 1—8

刑事判例評釈集 1—17

世界各国語の辞典 数点

Dictionary of Scientific Biography,

13 vols.

The World Atlas (Soviet ed.)

Bolshaya Sovetskaya Entsiklopediya.

Encyclopedia of Library and

Information Science.

World Atlas of Agriculture, vol. 1.

Digest of Commercial laws of the World.

Modern Fiction Studies, vol. 1—12

Annual Review of Plant Physiology,
vol. 11—18

Chemical Abstract, 59 ('63)

Subject Index pt. 2.

Australian Journal of Chemistry,

vol. 1—4 & 6.

Annales de l'Institut Henri Poincaré,

sect. B, vol. 1, 2.

Zeitschrift für

Wahrscheinlichkeit—theorie und

Verwandte Gebiete, Bd. 5—6.

Reports on Progress in Physics,

1958—1962.

Journal of Biological Chemistry,

vol. 233, 234.

Deep-sea Research, vol. 1, 2, 3.

Physical Reviews, vol.

85—120 (1952—1960).

Bell System Technical Journal,

vol. 25—29 (1946—50).

Automation & Remote Control,

vol. 22 (1961).

Proceedings of the 7th International

Conference on Phenomena in

Ionized Gases, 1965, vol. 1—3.

8th International Conference on

Phenomena in Ionized Gases, 1967.

Handbook of Molecular Cytology.

The Times Atlas of the World.

Advances in Carbohydrate Chemistry,

vol. 1—7.

Fracture, 1969.

R. H. Mosher & D. S. Davis-Industrial

and Specialty Papers, vol. 1. 3.

Water in the Unsaturated Zone.

機械工学講座 第1—30

日本列島地質構造発達史(英文) 漆正雄

最新園芸大辞典 全6巻

造園美学 大山陽生

モミジとカエデ 大井次郎

私のすすめたい本

『明治社会主義史料集』について

佐々木隆爾

「明治文献」という書店から20冊本として発刊されている『明治社会主義史料集』は、半世紀以上もまえの新聞、雑誌の集成であるが、いまなお共感を新たにしてくれる史料をたくさん収録している。

ここに採録されているのは、1897（明治30）年12月1日に創刊された労働者のための雑誌『労働世界』をはじめ、日露戦争に際して公然と戦争反対を叫んだことで有名な週刊『平民新聞』（1903年11月創刊）、それと並んで刊行され、その廃刊後は社会主義思想の宣伝や組織のための唯一の新聞となった『直言』（1904年1月創刊）、それをうけついで『光』（1905年11月創刊）、『新紀元』（同上創刊）など、明治期社会主義者たちが発行したおもな新聞、雑誌類である。この史料集をみれば、その関係の基本文献は全部しらべたことになるといってよい。しかもそれは全部分の復刻なので、それらがどんな広告をのせていたかまでわかるようになっていいる。だからこの史料は、わが国の近代的社会運動の源流をさがし求めるのに役立つだけでなく、プロレタリア文学、社会諷刺のための漫画の発生史をしらべる上にも欠くことのできないものである。広告の研究などやってみるのも面白いと思う。

ここにのっている史料のなかでとくによく知られているものとしては、たとえば週刊『平民新聞』が第18号の社説としてかかげた「露国社会党に与うる書」がある。これは、日本国民の多くが日露戦争緒戦の勝利に酔いしれていた1904年3月発表されたものである。それは、「諸君と我等との共通の敵なる悪魔」日露軍国主義を倒すために共に手を結んで戦おうとよびかけている。当時、世界各国の社会主義新聞はこのよびかけを競

って紹介したものである。侵略戦争に反対するための国際的な連帯行動の伝統は、ここにはじまるということができる。このような主張を文芸作品として表明したものも多い。たとえばクリスチャン木下尚江の「残る妻子や白髪しらがの親の明日を思へば心が裂ける名誉名譽と騒いで呉れな、国の為との世間の義理で、何も言はずに只目を閉じて、涙かくして死にに行く」という作品が同じく『平民新聞』にみられる。マルクス・エンゲルスの「共産党宣言」の邦訳がはじめてあらわれたのもこの新聞である。1904年11月13日、創刊1周年を記念して幸徳秋水と堺利彦の訳で発表されたのである。ここでブルジョアジーのことを「紳士閥」と訳しているのをみると、社会科学用語も創始者は苦労したものなのだなと苦笑させられる。

日本の朝鮮併合（1910年）の動きに最も鋭く反対したのも当時の社会主義者であった。その史料もたくさんみられる。たとえば『社会新聞』に田添鉄二が発表した「日韓両国の平民」（1907年12月）は、帝国主義政策に反対して、日朝両国「平民階級の握手」を訴えたものとして注目すべきである。

なお、静岡県に関係の深いものとして、『労働世界』に片山潜が発表したルポルタージュ「伊豆の稲取村」（現在県下賀茂郡東伊豆町）がある。片山は1902年12月、「模範村」として知られていた稲取村を訪れた。かれは、「社会主義は社会を組織する原則にして、之を1部落に応用せば其部落は幸福なる部落たることを得」と考え、その実例をここに見出そうとしたのである。かれはここで秋刀魚漁、海豚漁、石花菜採取などが住民の共同労働によっておこなわれていることや、その収益の一部が村で積み立てられて教育事業や農事改良に有効に使われていること、戸主会・母の会・青年会・処女会などの組織が住民を結集させるうえに大きな役割を果していることなどに感歎した。かれは自然経済のもとで発達した村落共同体の規制を社会主義と見誤ったのである。当時の片山の社会主義思想の水準はともかくとして、明治政府の支配の基盤をつくるうえでの「模範村」がどんな生産構造をもっていたかをよくしめしてくれる史料ではある。

（人文学部 助教授 政治史）

お知らせ

○大岩分室移転作業のため、次の期間、教職員の入庫および図書の貸出・返却ができない場合がありますので御了承願います。

3月7日(土)～18日(木)

○最近開架式図書の配架が非常に乱れてきています。閲覧しないで書架へ戻す場合には、お互いのため必ず元の位置へ戻して下さい。

○雑誌・新聞の閲覧について

展示されている雑誌・新聞以外は、閲覧票に記入して「雑誌貸出」へ請求して下さい。

〈雑誌〉

目録カード(書名目録)か購入雑誌目録により、その雑誌があるか否かを先ず調べ、目録カードにあるもの一製本済雑誌はその請求記号と雑誌名・巻号または年月号を記入願います。目録カードになくて雑誌目録にあるものは、雑誌名と巻号または年月号を記入願います。目録カード、購入雑誌目録ともない場合は「雑誌貸出」へ請求して下さい。

〈新聞〉

目録カードにあるもの一製本済新聞と縮刷版一は請求記号と新聞名・年月号を記入願います。目録カードにないものは未製本の新聞ですから新聞名と年月日を記入しつ請求して下さい。

なお、縮刷版のある新聞は朝日・毎日・読売・日経・赤旗の各紙で、赤旗を除く新聞の地方版は年間2分冊に製本してあります。

浜松分館だより

浜松分館では、昨年10月より、新着雑誌の目次を複写して、希望者に配布する、コンテンツ・サービスの業務を新たに始めました。

対象の雑誌は、理工科系の利用者に広く共通する

Nature (E)
 Philosophical Magazine. (E)
 Transac. of Faraday Soc. (E)
 Journal of Research of N.B.S. (A)
 Comptes Rendus. (F)

Doklady Akademiy Nauk sssr.

など15種類の、分館にて受入、配架されている外国雑誌です。

複写方法はゼロックス、費用は1頁につき25円、講座費より予算移算のため、学外からの受け付けはできません。現在15名の教官に対して、延べ34種類の目次を配布しています。忙しくて図書館へ来られない人にも迅速に必要な論文テーマを知らせることができるとか、まとまれば年間索引として利用できるなど好評です。

■お願い

下記の雑誌が欠号しております。どなたかお持ちの方は御寄贈頂けないでしょうか。

旧制静岡高等学校 「校友会雑誌」 15号

駿河郷土史研究会 「駿河」 2～9号, 12号

44年度利用統計 (昭和45年2月15日現在)

区分 月	開館日数 日	入館者数 人	1日平均 入館者数 人	利用冊数 冊	1日平均 利用冊数 冊
44年 4月	12	1,403	117	1,051	88
5月	25	6,656	266	3,356	134
6月	22	5,160	235	2,834	129
7月	27	6,768	251	4,245	157
8月	11	947	86	973	88
* 9月	24 (16)	10,168 (954)	424 (60)	4,950 (1,606)	206 (100)
	26 (7)	7,059 (182)	272 (16)	4,847 (246)	186 (35)
10月	23 (16)	6,058 (424)	263 (27)	3,199 (859)	139 (54)
12月	18	3,252	181	2,047	114
45年 1月	20 (11)	5,645 (562)	282 (51)	2,769 (756)	135 (69)
* 2月	11 (11)	6,130 (653)	557 (59)	2,091 (1,614)	190 (147)

● () 内は延長開館利用統計

● 指定図書利用は除く

* 印 試験期

● 但し、試験期と各季休業前並びに休業中は閲覧のみ
(長期貸出のため)

〈編集後記〉 創刊号に引き続き第2号を皆様にお届けします。「通信」が皆様と図書館との結び付きをより緊密にする端緒になれば幸いです。図書館への意見・要望等についての御寄稿と共に、今後とも温かい御支援をお願いします。